

岐阜

群馬再発見

2

3月、利根川河口堰で今年初めて、アユの遡上が確認された。冬の間を海で過ごしたアユたちは、春を待って川を上り始める。県内の河川では6月以降、解禁日とともにアユ釣りの季節がやってくる。

アユは89年5月、群馬の「県の魚」と決められた。それに遅れること1カ月

県の魚 アユ

危機救え 釣り人動く

半、やはり県の魚にアユを指定したが、同じ海なし県の岐阜県だ。

今年11日、岐阜市の長良川では、市の観光の代名詞

・鵜飼いが始まり、観光客でにぎわった。かがり火に照らされて鵜がアユを追う幻想的な風景を、屋形船から楽しむ。岐阜県内の一部河川では、同じ日にアユ釣りも解禁になった。

岐阜県には内陸県で唯一という水産課が置かれ、「郡上アユ」として地域ブランドを出願中だ。同漁協は負けてはいない。

小寺弘之知事は03年の知

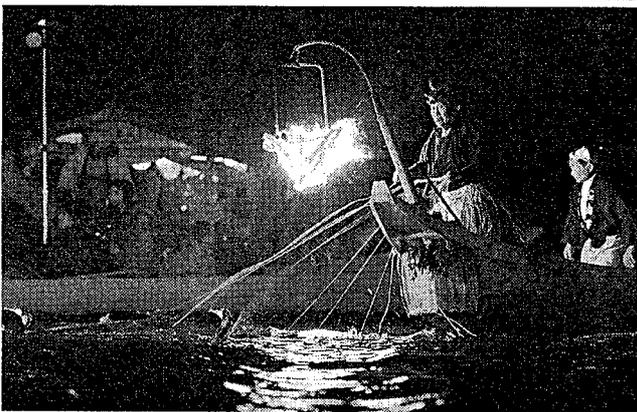
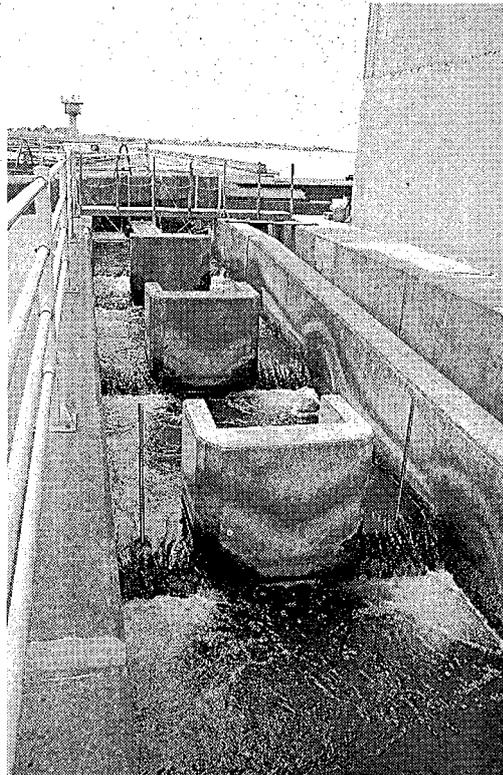
事選で、「10年後にはアユ漁獲高を300トにして日本一のアユ生産県にする」と公約。04年には県畜産園芸課内に、「ぐんまの魚振興室」が置かれた。翌年から毎夏、利根川で「県民アユ釣り大会」を開くなど、アユのPRに余念がない。

それでもアユを取り巻く状況は厳しい。冷水病の流行、カワウによる食害や水質の悪化など全国で抱える課題は群馬でも同様だ。

こうした危機に、立ち上がったのが県内の釣り人たちだった。02年、県に1万7千人を超える陳情署名を提出したのを皮切りに、翌年「日本一のアユを取り戻す会」を結成。アユの釣り人主体の組織の誕生は全国でも例がなかった。04年には県内で全国規模のシンポジウムを開催。事務局長の福田睦夫さん(55)は「ただ大きなアユを釣りたいという単純な思いがきっかけ。でも、アユの問題は環境や社会問題ともリンクすることに気がついた」という。

取り戻す会は05年、利根川のアユにとって大きな関

●利根川アユの関門「利根大堰」の脇に設けられた魚道。ここを乗り越えたアユだけが、県内の河川にたどり着く。11日午後8時14分、岐阜市の長良川で、加藤丈朗撮影



取り組みに全国が注目

「課題はまだ山積み」と福田さん。流域に首都圏を抱える利根川での対策は「筋縄ではいかず」「状況は日本一厳しい」という。「でも逆に言えば、利根川のアユを何とかできれば、日本中で何とかなるというところ」。群馬での取り組みに、全国の釣り好きが注目している。(伊藤綾)